

Inquiry-based Study ～自分自身と自分のふるさとの明日のために～

総合的な探究の時間（3学年）「入試形態別探究ゼミ」特集

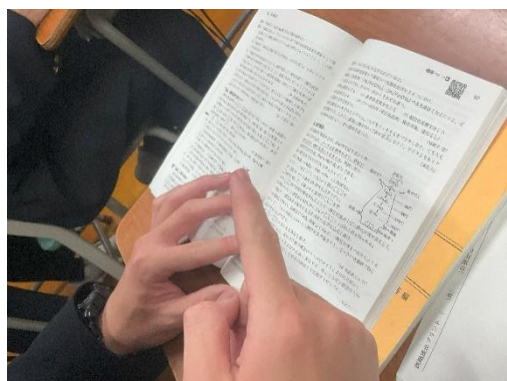
3年生は、千歳高校卒業後の自分の理想像をイメージしながら、大学・短大・専門学校に合格するために求められる「知識・技能」、それらを踏まえ、入学後の研究・実習で求められる「思考力・判断力・表現力」、また、研究・実習に向かう「主体性」の育成を兼ねて、学年の先生方のご協力をいただきながら、

- 1) 大学入試問題の演習を通した「**入試問題探究**」
- 2) 自分自身、日常にある時事問題に向き合うための「**面接練習・小論文演習**」
- 3) 進学先での研究・実習内容の先取り学習を意識した「**探究論文・プレゼン**」

を、コース制をとり、実施しています。

1) 「**入試問題探究**」の風景

自分と闘いながら、「赤本」や問題集、模擬試験などの教材を活用し、出題傾向の分析や後輩に向けてのアドバイスをまとめています。



実際に Google Classroom に提出されたものの一例を紹介します。

入試形態別探究ゼミ：「大学入試過去問演習・模擬試験」探究 記入用紙

3年

1. 解いた問題について

- ・ 大学名・年度（模擬試験の場合は模試名）：北海道教育大学 2020 年度
- ・ 科目名：数学
- ・ 問題の範囲（大問、小問番号）：大問 1

問題：（問題を記入、もしくは問題のコピー（データ）を貼り付け

問題 1 (60 点)

次の問いに答えなさい。

- (1) $a > 0, a \neq 1, M > 0, N > 0$ のとき、

$$\log_a MN = \log_a M + \log_a N$$

が成り立つことを示しなさい。

- (2) 次の不等式を解きなさい。

$$2\log_{\frac{1}{2}} x > 1 + \log_{\frac{1}{2}} (x+3)$$

- (3) $2x+y=3$ のとき、 $\log_{\frac{1}{2}}(x-1) + \log_{\frac{1}{2}} y$ の最小値と、そのときの x と y の値を求めなさい。

2. 自分の解答・所感

北教大はよく公式の証明が問題にでるので、北教大を目指す人は公式は暗記でなく仕組みを理解してる上で普段から計算頑張ってほしいと思います。

3. 所感

- ・ 難しかった点や理解が浅いと感じた部分：
大問 1：積分の計算で部分的にミス。
- ・ うまく解けたと感じた部分：
大問 2 は覚えていた公式、解き方だったので、スムーズに解けた。
- ・ 問題を解いてみた時の感覚や時間配分の工夫：
大問 1 は難しく、途中で時間がかかって焦った。

4. 解答・解説の振り返り

- ・ 正答と自分の解答の比較：
正しい解答との違いはどこにあったか：
ミスした原因の分析（ケアレスミス、時間不足、知識不足など）：
計算するスピードが遅く、焦ってしまったため、それでミスを誘発してしまった。

5. 今後の学習計画

次に取り組む際に気を付ける点： これまで解いた問題の解き直し
具体的にどの分野・問題を重点的に練習するか： 積分の計算問題

6. 同級生・後輩へのメッセージ

この問題を解くにあたって注意すべき点：
時間を意識して問題に取り組むことが大切。難しい問題が出てもパニックにならずに取り組んで。
模擬試験や過去問演習をどのように活用すべきか：
過去問との類題をピックアップし、模試の解説を書き写すところからはじめてみる

Google Classroom に提出されたこれらの「入試問題探究」は、千歳高校総合探究部のデジタルポートフォリオにデータ保存され、後輩が閲覧、参考資料として活用することになります。

2)「面接練習・小論文演習」の風景

担当の先生方から、面接・小論文に向けた方策・アドバイスを受けたあと、一人ひとりの生徒が、先生方から助言をもらったり、生徒同士で面接練習しあう、など、多面的な練習を続けてきました。



受験先に応じて、

時事的な話題についての小論文演習、

日本語面接（生徒相互アドバイス）

本校 ALT による英語面接

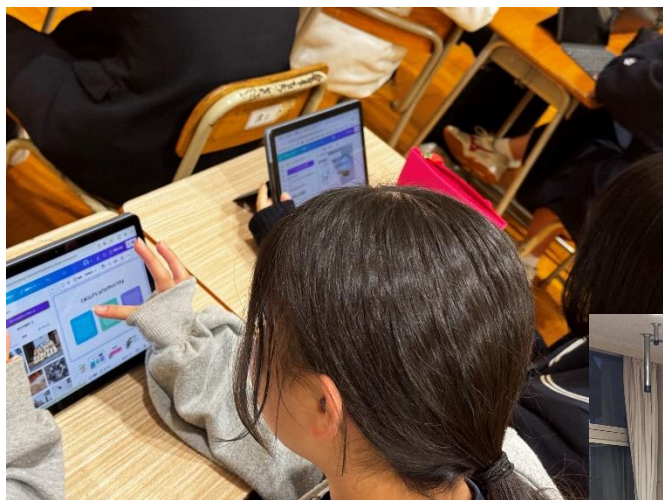
英語ディスカッション練習

などに各生徒が熱心に取り組んでいました。



2)「探究論文・プレゼン」の風景

自分の将来ビジョンをプレゼンテーションすることが必要な受験の形態も増えてきました。大学・短大・専門学校での学びについての事前学習、それぞれの上級学校での研究・実習内容について自分自身で主体的に学んだことを発表したり、スライドにまとめたりしています。



3年生の「総合的な探究の時間」も、12月をもって終了となりますが、千歳高校卒業後も、何かしらの探究活動は続いています。

クラスメートと切磋琢磨しながら過ごしたこの時間が、将来の探究・研究において何かの糧になることを切に願います。

